

## 磐越東線、いわき行き

外国人労働者

運転手

乗客たち（夫婦連れの乗客、乗り鉄、女性の乗客、その他）

山間部に行く、磐越東線のディーゼルカー車両内。

外国人労働者が急に不安になる。

乗り鉄はそれが気になって話しかける。

外国人は、どこで降りるのか、わからない。

スマホの電源がもたない。現場の集合時間をもう過ぎている、らしい。

しかし、これは乗り鉄の憶測である。

外国人労働者、急に「カミマタ」と言い出す。それなら、もう通り過ぎてると応える乗り鉄。

運転手に事情を話してやる。乗り鉄、親切自慢がにじみ出ている。

運転手「川前。川前」

外国人労働者、その駅で降りる。

乗り鉄「向こうから、また、来るから、それに乗って、また神俣で降りる、いい？」

外国人労働者、何遍もお辞儀をしている。

運転手「次は、赤井。赤井」

夫婦連れの乗客の夫が、あの網棚にある荷物は、今、降りた外国人のものではないかと言  
い出す。

夫「いやいや、そうだよ」

妻「ええ。ほんと」

夫、あれはあなたのですか、と言う。乗り鉄、違うと言う。

二人、話し始める。

夫「え、ネパール」

乗り鉄「ああ。そうか。そりゃ、大変なことになったな」

駅に着く。

運転手「赤井、赤井」

二人、運転手に事情を話す。荷物を預かることになる。

運転手「次は終点、いわき、いわき」

運転手「全車両の扉が開きます」

夫「なんか、もう、焦っちゃってて。とにかく、電話もできないし」

妻「ああ、そう。日本に来たばかりだったのかな」

夫「そうみたい」

妻「パスポートとか入ってるかもね」

夫「そうなんだよ。あの人きつと大変だよ」

妻「ああ。どうするんだろ。でも、パパ、いいことしたじゃない」

やがて、列車はいわきに着く。

運転手「いわき、いわき。全車両の扉が開きます」

一人の女性が網棚の荷物を探している。

夫「あれ、荷物ですか」

女性「はい」

夫「あ、それなら、運転席です」

と告げ。慌てて降りて行く夫婦連れ。

運転手に荷物のことを言う女性。

荷物を渡されている時に、乗り鉄が来て、

乗り鉄「あれ、これはあなたのだったの」

女性は去る。

乗り鉄「え、じゃ、なんだ違ってたんだ。え、あのおっさんが言い出したんだけど。あれ、どこ行った？」

乗り鉄、降りて、車両をカメラで撮る。そして去る。

一方、川前の駅のホームでは、一人、外国人労働者が立っている。